



室内暖房機の安全な使い方

毎年寒くなるこの時期、住宅火災の主な原因として暖房器具が挙げられます。

多くの家庭では冬休みシーズンに入り、気温が下がると、それぞれの部屋を暖かくするため、暖房器具等の熱源に頼るようになります。

室内暖房器具の火災の危険性は、セントラル・ヒーティング機器等と比較し3倍～4倍です。火災などによる建物被害や、火傷など大きな事態になるおそれもあります。用心のために、冬の間、室内暖房器具の正しい使い方を確実に守りましょう。

- ・ 国内で承認されている検査機関表示のついた暖房器具を選びます。
- ・ 暖房器具をコンセントにつなぐ前に電源コードを確認します。
- ・ 使い古して擦り切れていたり、損傷がある場合はその暖房器具を使用しません。
- ・ 延長コードでの暖房器具は使用しません。直接コンセントに差し込むようにしましょう。
- ・ 暖房器具は、寝具類、カーテン、家具、衣類、そして紙類から少なくとも1メートルの距離をおきます。
- ・ 暖房器具は、水平で平らの所に設置します。戸棚やテーブル又は家具の上に設置しないようにしましょう。
- ・ 屋外や浴室用途に設計された暖房器具以外は湿度の高い場所、又は、濡れている場所に設置しないようにしましょう。
- ・ 人通りの多い場所や出入り口付近への暖房器具の設置は避けましょう。
- ・ 寝具を温めたり、食品を加熱、衣類の乾燥、凍結した配管を解冻する為に暖房器具を使用してはいけません。
- ・ 不在時、就寝時、並びにトイレに行く際には暖房器具の電源を切ります。
- ・ 暖房器具を使用しない場合は、スイッチを切り、電源プラグを抜き、安全に保管をします。
- ・ 大人が監視していない状態で子供がいる場所では場合は暖房器具は使用しません。
- ・ 基地内で消防による正規な許可を受けていない暖房器具の個人使用は禁止されています。

電気式暖房器具の安全対策

多くの電気式暖房器具は比較的安全です。ただし、長時間あたり続けると「低温やけど」になる恐れがありますので、その点には注意が必要です。

低温やけどについては、高温にふれて起こる熱傷よりも長時間にわたり熱源に触れているため、気付かないうちに症状(火傷)が進行しているケースもあるため、常に意識して置くようにしましょう。特に、暖房の近くに長時間いたり、触れたままの状態にいる、寝てしまうなどが危険を高めます。

ファンヒーター・石油ストーブの安全対策

まず、火傷に注意が必要です。小さな子供がいる場合、特に石油ストーブは直接的な火傷が怖いので使用しないか、柵を設けるなどして対策をしましょう。ファンヒーターの場合は石油・ガス共に直接的に火傷をするリスクは多少低いです、長時間暖房にあたり「低温火傷」などをやる危険性があります。小さな子供がいる場合は同様に柵などで安全対策をしましょう。また、ガスや灯油の燃焼による一酸化炭素中毒に対しても注意が必要です。適度な換気を徹底するようにしましょう

ホットカーペットの安全対策

比較的安全に見える「ホットカーペット」ですが、特に子供の低温火傷の事例が多く報告されています。特に、スイッチを入れた状態で寝てしまったときなどに事故が起こりやすいです。タイマーを使って一定時間で切れるようにしたり、そもそもホットカーペットの上で直接寝ないようにするなどの対策をとりましょう。

ハロゲンヒーターの安全対策

暖房器具の中でも近年問題化しているのが、ハロゲンヒーターによる火災や火傷などです。ハロゲンヒーターは仕組み自体は強いランプ(電球)で部屋を暖めているようなものです。通常高温化する電球部分にはカバーを覆って、反射板を通じて熱を出すのですが、本体を覆ったりすると急激に温度が上昇し火災になることがあります。

また、長期間手入れをしないでホコリがたまった状態で使う事でホコリに引火するケースもあります。特にパラボラアンテナ型のハロゲンランプにそのリスクが高いです。